

## 働く女性のくらしとお金に関する調査2017

～働く女性のマネーリテラシー「iDeCoのメリット」の認知率は18%、パート主婦は14%～

特定非営利活動法人(NPO法人)日本ファイナンシャル・プランナーズ協会(略称:日本FP協会、理事長:白根壽晴)は、2017年2月15日～2月20日の6日間、全国の20代～50代の就業女性を対象に「働く女性のくらしとお金に関する調査」をインターネットリサーチで実施し、1,200名の有効サンプルの集計結果を公開しました。(調査協力会社:ネットエイジア株式会社)

### ■調査結果の概要

#### 【働く女性のくらしの実態とホンネ】 ……2～12ページ

- ◆働く女性のフルタイム率 独身女性では7割弱、既婚女性やワーキングマザーでは約4割
- ◆働く女性のホンネ「働くならゆるく働きたい」「出世するほど結婚相手を見つけづらくなる」いずれも6割半
- ◆「夫が転職したら今の職場を辞めると思う」正規雇用者の7割、役職つき女性でも6割半
- ◆働く女性が魅力を感じる結婚相手は?「妻に専業主婦になって欲しい男は結婚相手としてナシ」5割強、「稼ぎも家事もきっちり分担して支え合いたい男はアリ」7割強、4人に1人は「専業主“夫”志望の男もアリ」
- ◆共働きでも家事は女性の仕事なの?妻がフルタイム勤務でも「夫は全く家事をしない」は2割強
- ◆女性の活躍推進や働き方改革で女性が期待する取り組み まずは「有給休暇の取得」と「賃上げ」から!
- ◆職場の人間関係を「上司に相談したい」は4人に1人、キャリア形成を相談したい相手は「パートナー」
- ◆なんでも相談できそうなパートナー 20代女性の理想像は「櫻井翔さん」、30代は「星野源さん」ほか、40代女性の理想像は「福山雅治さん」、50代は「三浦友和さん」

#### 【働く女性のくらしとマネープラン】 ……13～19ページ

- ◆2017年度の目標 3人に1人は「新年度中に家計を見直し」、未就学の子を持つワーママでは半数以上
- ◆生活の余裕や貯蓄を増やす工夫 「変動費の節約を実施」4割半も「家計簿をつけている」は4割以下
- ◆結婚の準備資金はいくら必要?結婚準備資金に必要なだと思ふ金額は平均196万円
- ◆老後生活の準備資金 シミュレーション経験者の見積もりは平均1,635万円、未経験者と443万円差
- ◆働く女性のマネーリテラシー「iDeCoのメリット」の認知率は18%、パート主婦は14%
- ◆「新配偶者控除は150万円」既婚女性の認知率は71%、「引き上げを評価する」は46%
- ◆配偶者控除の見直し「夫婦控除にすべき」31%、「配偶者控除を残すべき」19%、パート主婦では賛否拮抗
- ◆家計管理について相談したい相手 家族や友人に次いで、FPなどの「専門家」がランクイン
- ◆お金の悩みに有効なアドバイスをくれそうな人 イメージする男性は「タモリさん」や「森永卓郎さん」、女性は「天海祐希さん」、「松居一代さん」、「北斗晶さん」

### ■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、  
「日本FP協会 調べ」と付記のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

本件に関するお問合せ先			
担当	日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 広報部広報課 金田・田和	TEL 03-5403-9739	FAX 03-5403-9795
			E-mail info@jafp.or.jp

特定非営利活動法人(NPO法人)日本ファイナンシャル・プランナーズ協会  
 <本部事務所> 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス5F TEL 03-5403-9700(代) FAX 03-5403-9701  
 <大阪事務所> 〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜1-4-19 マニユライフプレイズ堂島5F TEL 06-6344-8063 FAX 06-6344-8065

## アンケート調査結果

### 【働く女性のくらしの実態とホンネ】

- ◆働く女性のフルタイム率 独身女性では7割弱、既婚女性やワーキングマザーでは約4割
- ◆働く女性は平均5.8時間睡眠、通勤片道1時間超の人は平均5.2時間睡眠
- ◆フルタイム勤務女性の帰宅時刻 ピークは18時～20時
- ◆正規雇用で働く女性の3人に1人、役職つき女性の半数以上は月に10時間超の時間外労働をしている

はじめに、働く女性のくらしの実態について明らかにすべく、質問を行いました。

全国の20代～50代の就業女性1,200名(全回答者)に、現在の就業形態を聞いたところ、「正規社員・職員」30.7%、「契約・派遣」15.1%、「バイト・パート」47.8%となりました。「役員(経営者・理事・監事など)」0.4%や「事業主(自営業・個人事業主など)」4.3%などの、「雇われない働き方」は1割以下となっています。

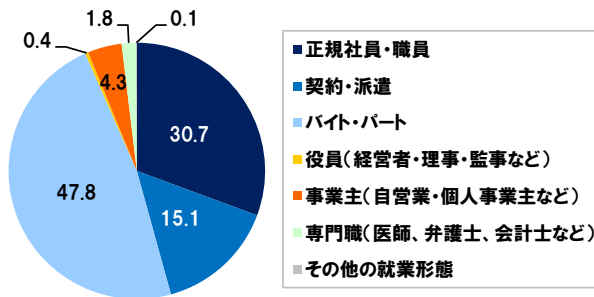
次に、全回答者のうちの被雇用者(1,122名)に、働き方はフルタイム勤務(※1)か短時間勤務(※2)か聞いたところ、「フルタイム勤務」55.8%、「短時間勤務」44.2%となりました。

年齢別にみると、「フルタイム勤務」の割合(以下、フルタイム率)は20代69.8%→30代59.2%→40代46.8%、50代46.6%と、20代から40代にかけて顕著に減少していることがわかります。これは、年齢が上がり、結婚や出産・子育てをする人が増えることで、家事労働や育児と仕事の両立のために、短時間勤務を選ぶ人が増えるためと考えられます。実際に、既婚者のフルタイム率(39.3%)は独身者(68.2%)より低く、子どものいる人のフルタイム率(41.5%)は子どもがいない人(66.6%)よりも低いところからも、そのことがうかがい知れました。

※1.「週に40時間程度の契約/例:1日8時間×週5日など」と説明を提示して聴取

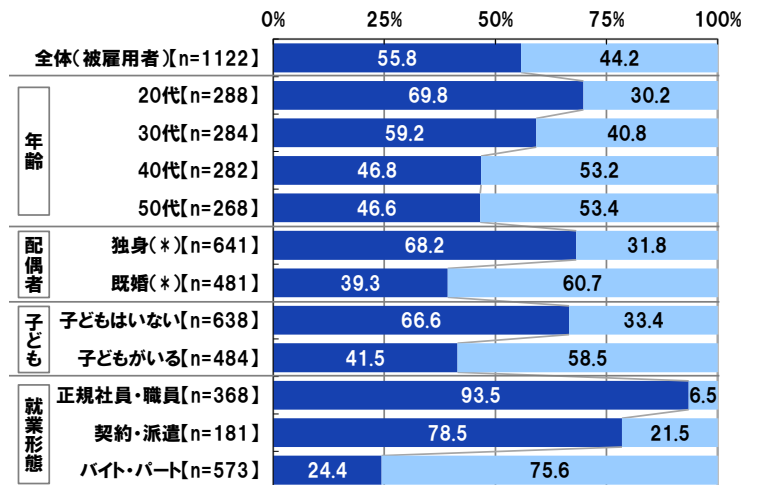
※2.「フルタイム勤務よりも短い契約/例:1日6時間×週5日、1日8時間×週3日など」と説明を提示して聴取

#### ◆現在の就業形態 [単一回答]



#### ◆働き方はフルタイム勤務か、短時間勤務か [単一回答]

※対象:被雇用者



■フルタイム勤務  
(週に40時間程度の契約/例:1日8時間×週5日など)  
■短時間勤務  
(フルタイム勤務よりも短い契約/例:1日6時間×週5日、1日8時間×週3日など)

\*離別・死別した既婚者は「独身」に分類

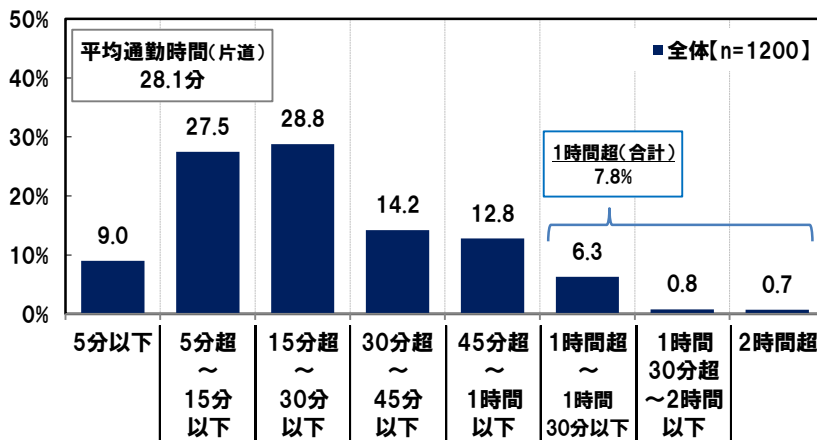
続いて、全回答者(1,200名)に、職場までの通勤時間(片道)を聞いたところ、「5分超～15分以下」27.5%や「15分超～30分以下」28.8%に回答が集中し、平均通勤時間は28.1分となりました。一方で、通勤に「1時間超」かけている人は合計で7.8%みられました。

通勤時間が「1時間超」の割合を居住地別にみると、関東居住者は14.3%とそのほかの地域よりも高くなりました。関東では長い通勤時間をかけて職場に通っている人が多いようです。

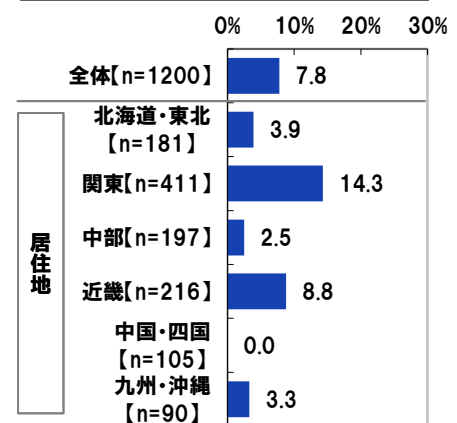
次に、仕事がある日の睡眠時間は何時間くらいになることが多いか聞いたところ、「5時間超～6時間以下」35.8%や「6時間超～7時間以下」27.9%に回答が集まり、平均睡眠時間は5.8時間となりました。

職場までの通勤時間別に平均睡眠時間をみると、通勤時間が長い人ほど睡眠時間が短い傾向にあり、通勤時間が1時間超の人は平均睡眠時間が5.2時間となりました。自宅から遠方の職場に通うために、睡眠時間を削って頑張っている人が多いのではないのでしょうか。

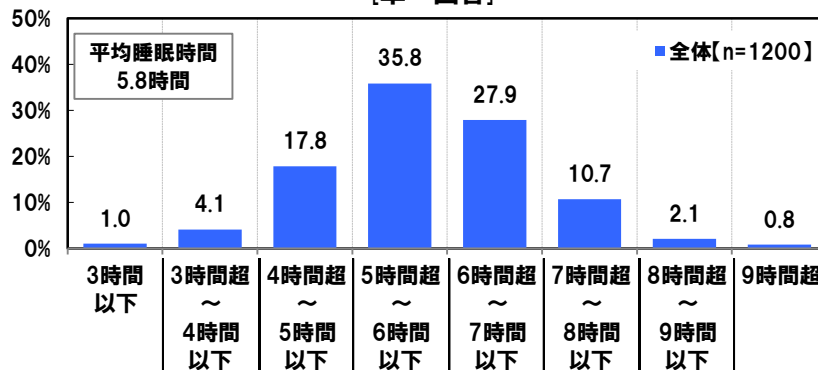
◆職場までの通勤時間(片道) [単一回答]



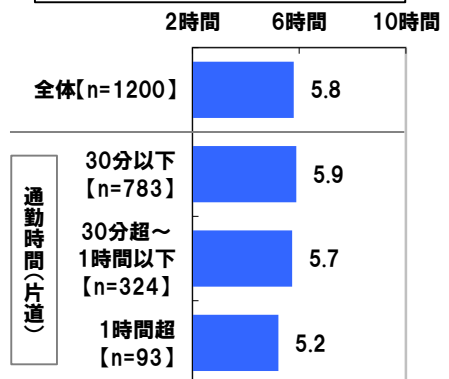
■通勤時間(片道)が「1時間超」の割合



◆仕事がある日の睡眠時間は何時間くらいになることが多いか [単一回答]



■仕事がある日の平均睡眠時間



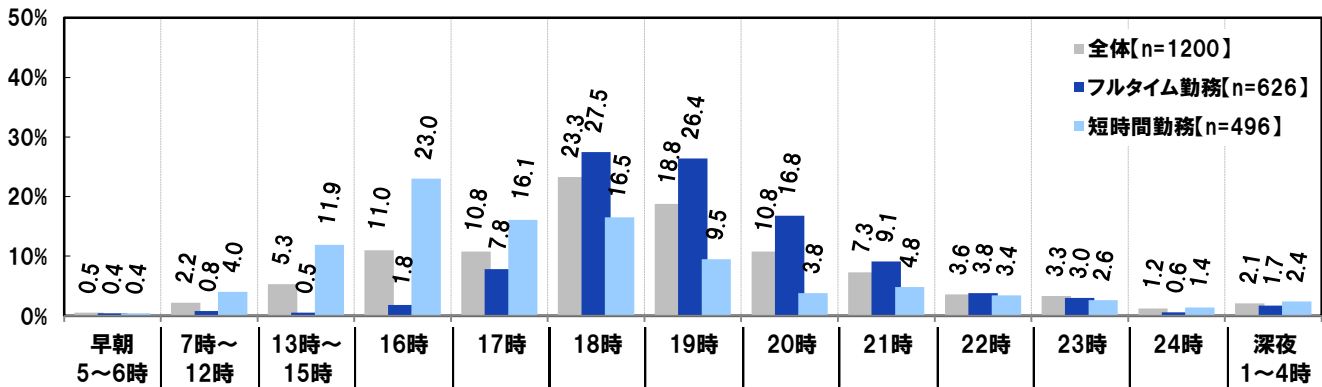
続いて、仕事がある日の帰宅時刻は何時頃になることが多いか聞いたところ、「18時」23.3%や「19時」18.8%に回答が集中しました。

フルタイム勤務と短時間勤務とに分けてみると、フルタイム勤務は「18時」27.5%や「19時」26.4%、「20時」16.8%に回答が集まり、短時間勤務は「16時」23.0%や「17時」16.1%、「18時」16.5%に回答が集まりました。フルタイム勤務者の帰宅時間のピークは18時～20時、短時間勤務者は16時～18時のようです。

さらに、全回答者のうちの被雇用者(1,122名)に、ひと月あたりの時間外労働時間(残業や休日出勤)は何時間ぐらいになることが多いか聞いたところ、時間外労働をすることがない「0時間」は35.8%となり、「1時間～10時間以下」が39.3%で最多回答、「10時間超～20時間以下」は8.6%、以降、「20時間超」は合計で16.2%となりました。時間外労働をすることがある人(720名)の平均時間外労働時間は16.0時間となっています。

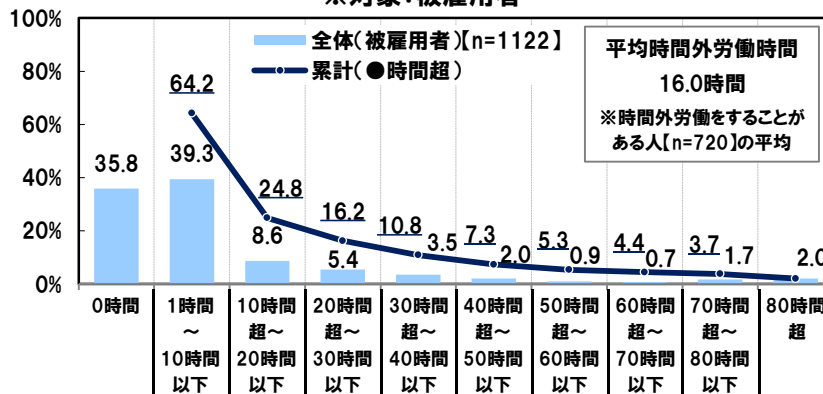
また、「10時間超」の割合に注目してみると、全体では24.8%とおおよそ4人中1人の割合、正規社員・職員では34.3%と3人中1人の割合、正規社員・職員の中でも役職つきは54.6%と半数を超えました。

◆仕事がある日の帰宅時刻は何時頃になることが多いか [単一回答]



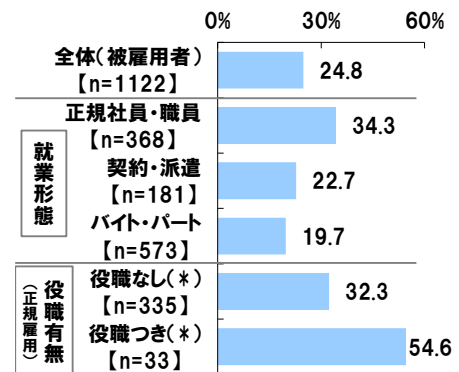
◆ひと月あたりの時間外労働時間(残業や休日出勤)は何時間ぐらいになることが多いか [単一回答]

※対象:被雇用者



■「10時間超」の時間外労働をすることが多い割合

※対象:被雇用者



\*主任クラス以上を「役職つき」に分類

- ◆働く女性のホンネ「働くならゆるく働きたい」「出世するほど結婚相手を見つけづらくなる」いずれも6割半
- ◆「夫が転職したら今の職場を辞めると思う」正規雇用者の7割、役職つき女性でも6割半
- ◆「育休はキャリアにマイナス」と7割弱の女性が認識、「出産するときは退職する」が6割弱

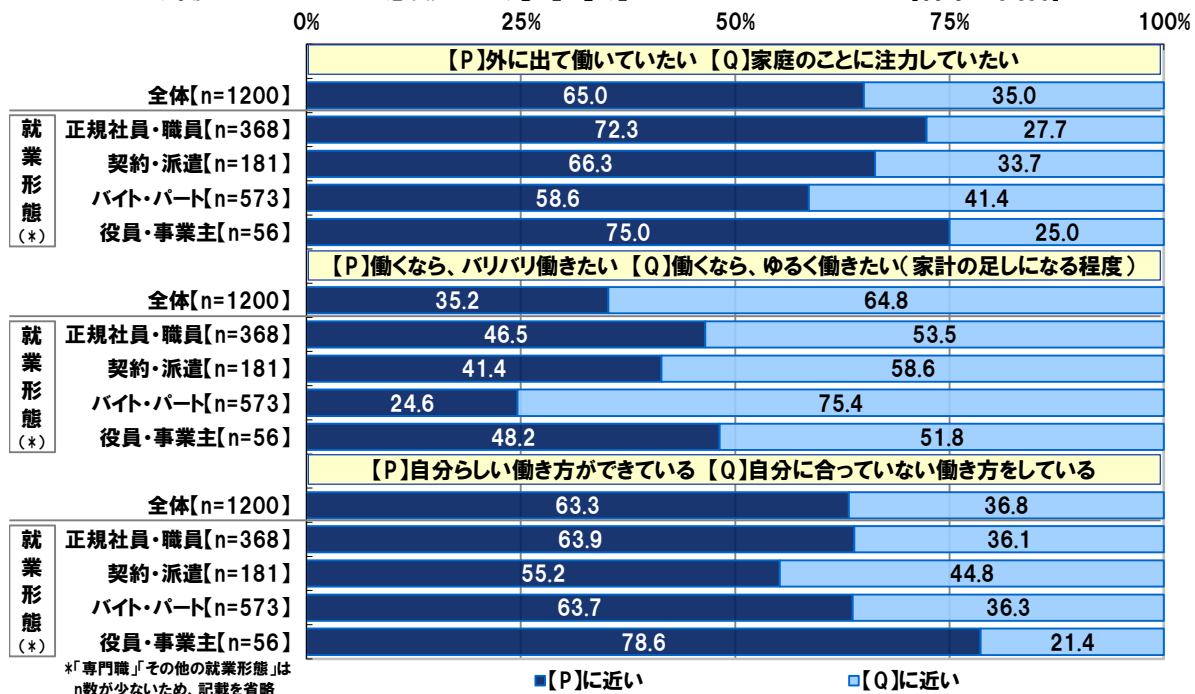
働く女性のくらしの実態をみてきましたが、仕事とくらしの関係について、働く女性はどのような気持ちを抱いているのでしょうか。働く女性のホンネを探りました。

全回答者(1,200名)に、働くことについての意識として、「【P】外に出て働いていたい」と「【Q】家庭のことに注力してきたい」のどちらにあてはまるか聞いたところ、「【P】に近い」が65.0%で多数派となりました。

また、「【P】働くなら、バリバリ働きたい」と「【Q】働くなら、ゆるく働きたい(家計の足しになる程度)」では、「【Q】に近い」が64.8%で多数派となりました。働きがいや出世を求めてバリバリ働きたいと思う人よりも、ゆるい働き方を希望する人が多いようです。外に出て働きたくないわけではないけれども、プライベートを犠牲にするような働き方は好まないのではないのでしょうか。「【Q】に近い」の割合は特に、バイト・パート75.4%で高く、正規社員・職員では53.5%、契約・派遣では58.6%となりました。

さらに、「【P】自分らしい働き方ができている」と「【Q】自分に合っていない働き方をしている」とでは、「【P】に近い」が63.3%で多数派になり、「【Q】に近い」は36.8%となりました。現在の働き方は自分に合っていると実感しながら働いている人のほうが多いようですが、自分に合わないと感じながらも我慢して働いている人が3人中1人以上と、決して少なくない割合で存在していることがわかりました。

◆働くことについての意識として、【P】と【Q】のどちらにあてはまるか [各単一回答]



\*「専門職」「その他の就業形態」はn数が少ないため、記載を省略

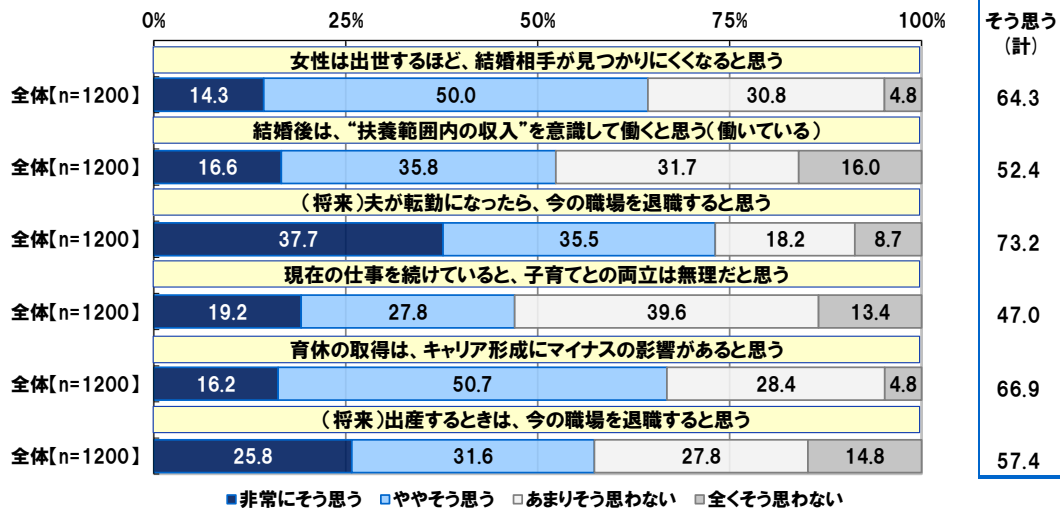


続いて、“結婚と仕事”についての意識を聞いたところ、「女性は出世するほど、結婚相手が見つかりにくくなると思う」では同意率（「非常にそう思う」+「ややそう思う」の合計、以下同様）が 64.3%となり、「結婚後は、“扶養範囲内の収入”を意識して働くと思う（働いている）」は 52.4%、「（将来）夫が転職になったら、今の職場を退職すると思う」は 73.2%となりました。およそ 3 人中 2 人の割合で、“出世は結婚相手を見つけることの障害になる”との思いを抱いているようです。また、家事労働などの役割分担意識からか、結婚したら扶養範囲内で働くことになると思う女性が半数以上となっており、結婚後、夫が転職することがあれば、現在の職場を退職することになると予測する女性がおおよそ 4 人中 3 人の割合でいることが明らかになりました。

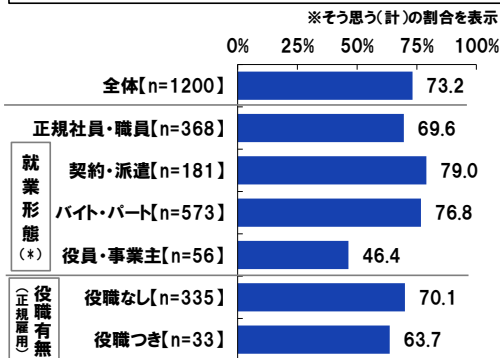
さらに、“育児と仕事”についての意識を聞いたところ、「現在の仕事を続けていると、子育てとの両立は無理だと思う」では同意率が 47.0%、「育休の取得は、キャリア形成にマイナスの影響があると思う」は 66.9%、「（将来）出産するときは、今の職場を退職すると思う」は 57.4%となりました。現在の労働環境では子育てとの両立をすることが不可能だと感じている人が半数近く、育休を取得したとしても、キャリア形成にとってマイナスになってしまうとの意識を持つ人が 3 人中 2 人の割合となっています。このような状況からか、出産をするときには、現在の職場を退職することになると予測する女性が 2 人中 1 人以上の割合でみられました。

また、夫の転職や出産で、「今の職場を退職すると思う」と予測している割合に注目すると、正規社員・職員では夫の転職 69.6%、出産 47.8%、正規社員・職員の中でも役職つきは夫の転職 63.7%、出産 42.5%でした。今後も状況が変わらなければ、管理職やリーダー職についた女性であっても、将来の夫の転職や出産を機に、職場を去ってしまう可能性が大いにあることが明らかになりました。

◆くらしと仕事の関係についての意識として、どの程度そう思うか [各単一回答]

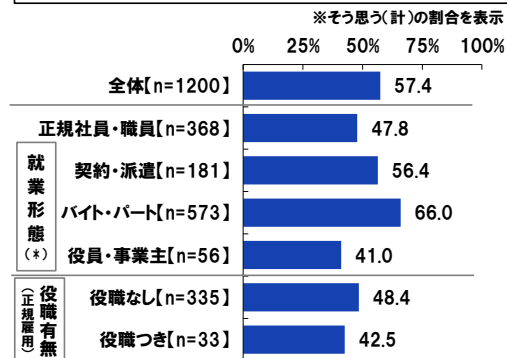


■(将来)夫が転職になったら、今の職場を退職すると思う



\*「専門職」「その他の就業形態」はn数が少ないため、記載を省略  
\*主任クラス以上を「役職つき」に分類

■(将来)出産するときは、今の職場を退職すると思う



\*「専門職」「その他の就業形態」はn数が少ないため、記載を省略  
\*主任クラス以上を「役職つき」に分類

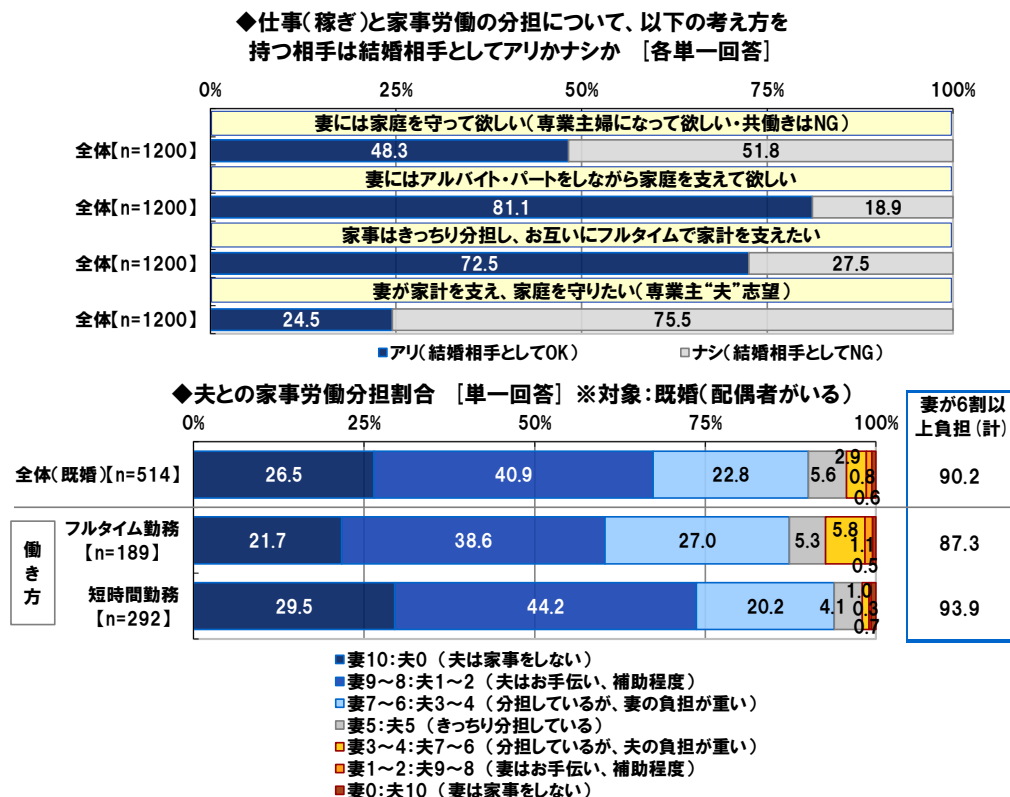
- ◆働く女性が魅力を感じる結婚相手は？「妻に専業主婦になって欲しい男は結婚相手としてナシ」5割強、「稼ぎも家事もきっちり分担して支えたい男はアリ」7割強、4人に1人は「専業主“夫”志望の男もアリ」
- ◆共働きでも家事は女性の仕事なの？妻がフルタイム勤務でも「夫は全く家事をしない」は2割強
- ◆働く妻の不満 せめて「食事の片づけ」や「整理整頓」はして！子育て期は「子どもの世話」にも参加して！

全回答者(1,200名)に、仕事(稼ぎ)と家事労働の分担についての考え方をいくつか提示し、そのような考え方を  
持つ相手は結婚相手としてアリかナシか聞いたところ、「妻には家庭を守って欲しい(専業主婦になって欲しい・共働  
きはNG)」では、「アリ(結婚相手としてOK)」が48.3%、「ナシ(結婚相手としてNG)」が51.8%となりました。専  
業主婦として家庭を守って欲しいとの考え方を持つ人は働く女性の結婚相手としての人気はあまりないよう  
です。また、「妻にはアルバイト・パートをしながら家庭を支えて欲しい」では「アリ」が81.1%、「家事はき  
っちり分担し、お互いにフルタイムで家計を支えたい」では「アリ」が72.5%、「妻が家計を支え、家庭  
を守りたい(専業主“夫”志望)」では「アリ」が24.5%となりました。共働きを希望する人との結婚に魅  
力をを感じる働く女性が多いようで、お互いにフルタイムで働き、家事労働もきっちり分担、という夫婦  
の形も人気があるようです。他方で、女性が外で稼ぎ、男性が家庭を守る専業主“夫”のスタイルは、今  
回提示した考え方の中では最も「アリ」が少ないものの、4人中1人が「アリ」と回答しています。仕事  
と家事労働の分担に対する価値観の多様化がうかがい知れる結果となりました。

では、実態としては、夫婦で家事労働をどのように分担しているのでしょうか。

既婚者(514名)に、夫との家事分担割合について聞いたところ、「妻10:夫0(夫は家事をしない)」26.5%、「妻9  
~8:夫1~2(夫はお手伝い、補助程度)」40.9%、「妻7~6:夫3~4(分担しているが、妻の負担が重い)」22.8%  
となり、合計で「妻が6割以上負担」が90.2%となりました。

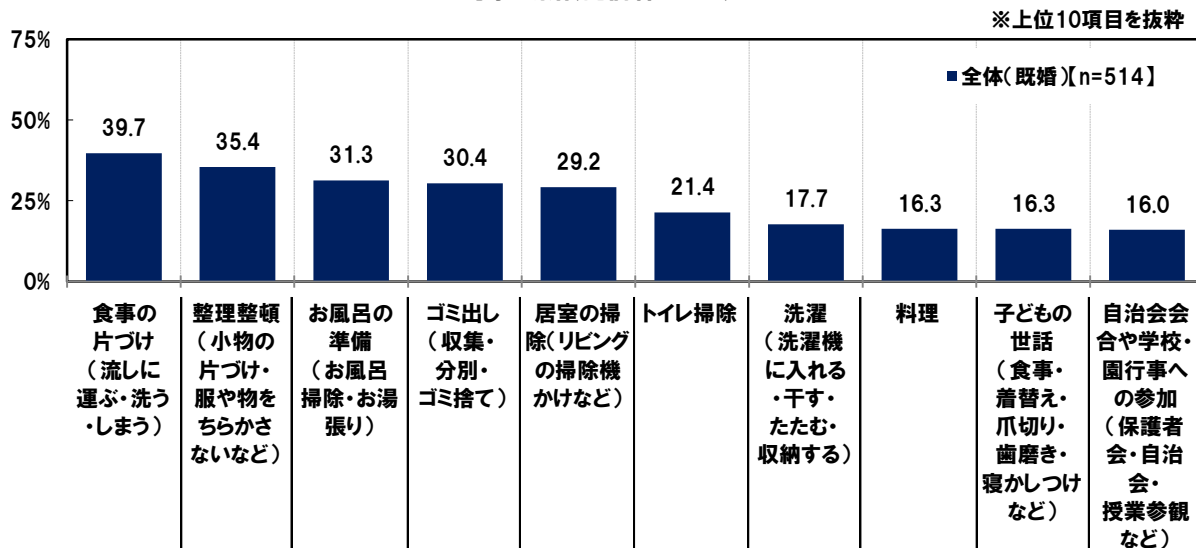
働き方別にみると、フルタイム勤務でも「妻10:夫0」は21.7%、「妻が6割以上負担」は87.3%となっ  
ています。現状として、妻がフルタイム勤務であっても、家事労働の比重が妻に偏っている夫婦が大多数  
のようです。



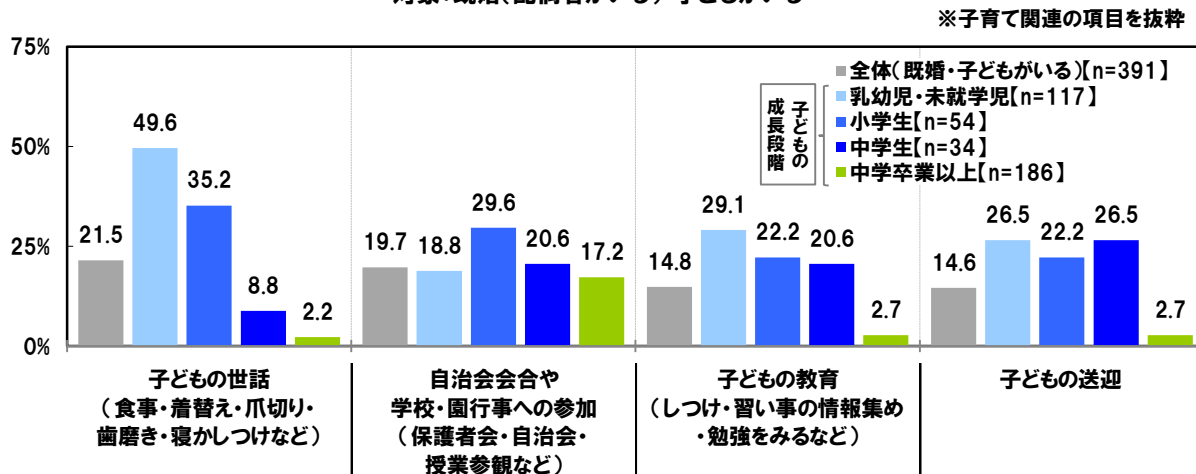
続いて、既婚者(514名)に、夫にもっと家庭で頑張ってもらいたいと思うことは何か聞いたところ、「食事の片づけ(流しに運ぶ・洗う・しまう)」39.7%が最も高く、次いで、「整理整頓(小物の片づけ・服や物をちらかさないなど)」35.4%、「お風呂の準備(お風呂掃除・お湯張り)」31.3%、「ゴミ出し(収集・分別・ゴミ捨て)」30.4%、「居室の掃除(リビングの掃除機かけなど)」29.2%が続きました。これらは「洗濯(洗濯機に入れる・干す・たたむ・収納する)」17.7%や「料理」16.3%よりも上位となっています。炊事や洗濯などの“主役”を担ってくれなくとも、食事の後片づけや整理整頓、お風呂の準備などの“手伝い”を頑張ってもらいたいと願っている、働く女性のホンネを知ることができました。

また、既婚者のうち、子どもがいる人の回答をみると、「子どもの世話(食事・着替え・爪切り・歯磨き・寝かしつけなど)」21.5%、「自治会会合や学校・園行事への参加(保護者会・自治会・授業参観など)」19.7%、「子どもの教育(しつけ・習い事の情報集め・勉強をみるなど)」14.8%、「子どもの送迎」14.6%となりました。特に、子どもが幼いころは子どもの世話を頑張ってもらいたいと願う女性が多いようで、乳幼児・未就学児の子どもがいる人は「子どもの世話」が49.6%、小学生の子どもがいる人は35.2%となりました。働きながら子育てをしているワーキングマザーは、特に子どもが幼いときほど、夫にも子どもの世話に参加して欲しいと願っているようです。現状、家事労働だけではなく、子育てに関する負担も妻まかせになってしまっている夫婦が多いことの表れかもしれません。

◆夫にもっと家庭で頑張ってもらいたいと思うこと [複数回答可]  
対象:既婚(配偶者がいる)



◆夫にもっと家庭で頑張ってもらいたいと思うこと [複数回答可]  
対象:既婚(配偶者がいる)・子どもがいる





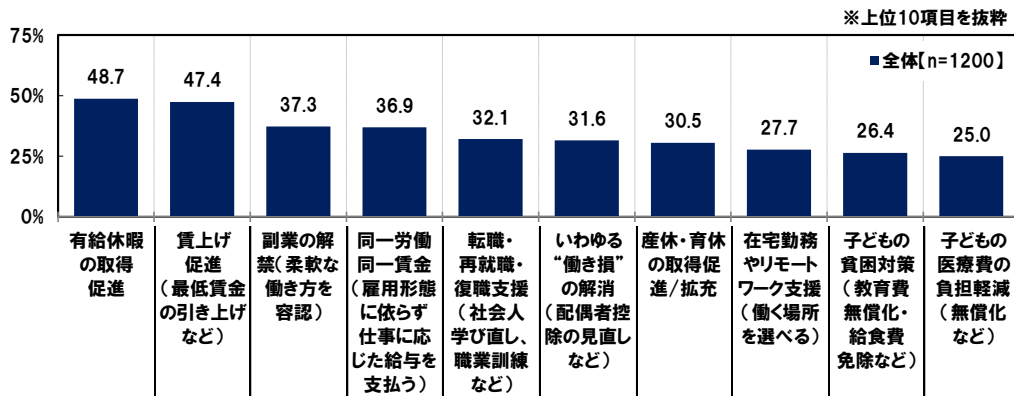
- ◆女性の活躍推進や働き方改革で女性が期待する取り組み まずは「有給休暇の取得」と「賃上げ」から！
- ◆非正規で働く女性が期待する改革 「同一労働同一賃金」や「いわゆる“働き損”の解消」を期待
- ◆ワーママの期待する取り組み 「子どもの医療費負担軽減」「産休・育休の促進・拡充」「子どもの貧困対策」、小学生の子どもを持つ母は「副業解禁」や「転職支援」、「在宅勤務・リモートワーク」も期待

昨今では、女性の活躍推進や働き方改革として、様々な取り組みが実施されたり議論されたりしていますが、働く女性はどのような取り組みの実現を期待しているのでしょうか。

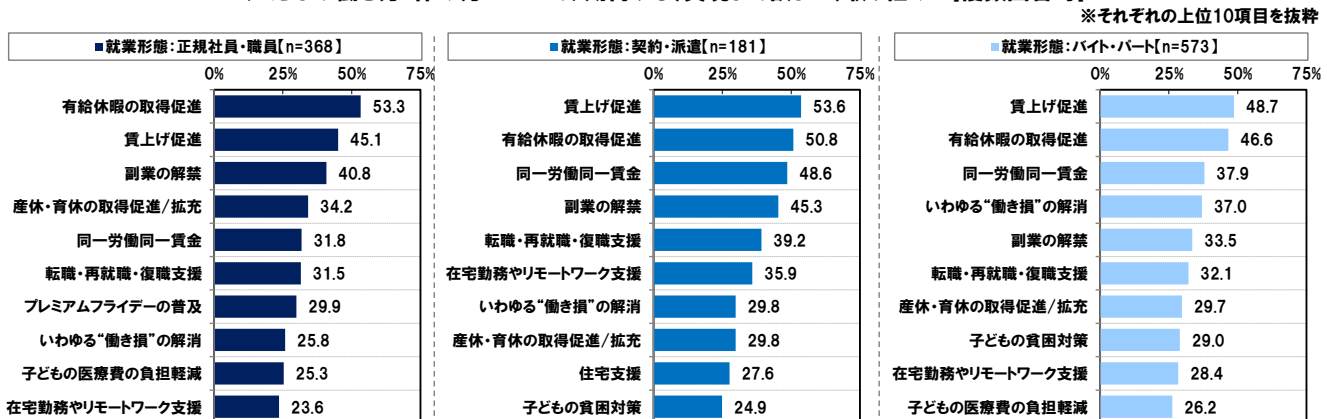
全回答者(1,200名)に対し、くらしや働き方・休み方について、期待する(実現して欲しい)取り組みを聞いたところ、「有給休暇の取得促進」48.7%と「賃上げ促進(最低賃金の引き上げなど)」47.4%が5割弱、「副業の解禁(柔軟な働き方を容認)」37.3%と「同一労働同一賃金(雇用形態に依らず仕事に応じた給与を支払う)」36.9%が3割後半、「転職・再就職・復職支援(社会人学び直し、職業訓練など)」32.1%や「いわゆる“働き損”の解消(配偶者控除の見直しなど)」31.6%、「産休・育休の取得促進/拡充」30.5%が3割前半で続きました。

就業形態別にみると、正規社員・職員では「有給休暇の取得促進」が53.3%で最多回答となり、2位は「賃上げ促進」45.1%、3位は「副業の解禁」40.8%と続きました。今年の2月から始まった取り組みの「プレミアムフライデーの普及」29.9%も7位と上位にランクインしていますが、それよりも、有給休暇の取得率向上や賃上げが求められているようです。また、契約・派遣やバイト・パートでは、どちらもトップ3は「賃上げ促進」(契約・派遣 53.6%、バイト・パート 48.7%、以下同順)、「有給休暇の取得促進」(50.8%、46.6%)、「同一労働同一賃金」(48.6%、37.9%)となりました。そのほか、バイト・パートでは「いわゆる“働き損”の解消」37.0%が4位に挙がり、正規社員・職員(8位、25.8%)や契約・派遣(7位、29.8%)よりも上位となりました。

◆くらしや働き方・休み方について、期待する(実現して欲しい)取り組み [複数回答可]



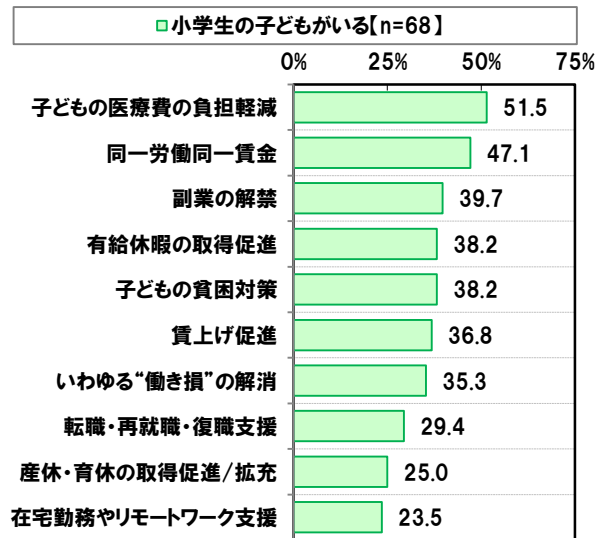
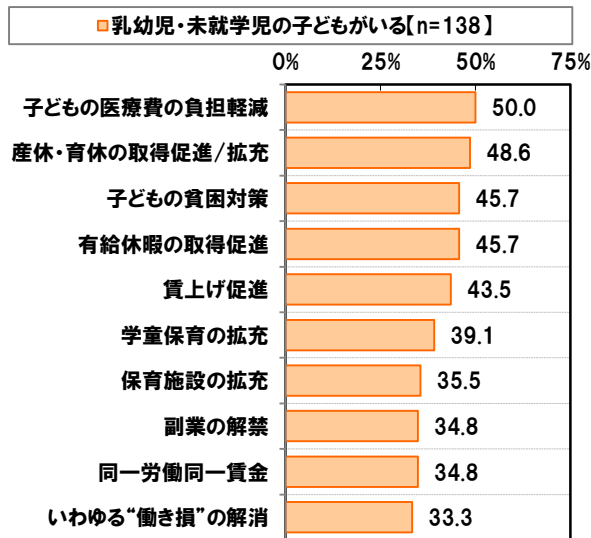
◆くらしや働き方・休み方について、期待する(実現して欲しい)取り組み [複数回答可]



さらに、乳幼児・未就学児の子どもがいる人では、「子どもの医療費の負担軽減」50.0%が最も高く、2位「産休・育休の取得促進/拡充」48.6%、3位「子どもの貧困対策(教育費無償化・給食費免除など)」45.7%と、トップ3の回答が子育て関連になったほか、6位「学童保育の拡充」39.1%、7位「保育施設の拡充(認可保育施設の拡充や認可外の保育施設の負担軽減)」35.5%なども上位に挙がりました。若い子どもを育てながら働いているワーキングマザーは、子育てにかかる金銭的な負担を緩和する取り組みや、子育てをしながらでも安心して働ける取り組みの実現を期待しているようです。また、小学生の子どもがいる人では、3位「副業の解禁」39.7%や、8位「転職・再就職・復職支援」29.4%、10位「在宅勤務やリモートワーク支援」23.5%といった、柔軟な働き方やキャリアチェンジに関する取り組みが上位に挙がりました。収入を増やすために副業したい、元の職場への復職や転職でキャリアチェンジしたい、子どものことを見ながらリモートワークをしたい、などの思いがあっても、現状では実現が難しい状況にあると感じているワーキングマザーが多いのではないのでしょうか。

◆くらしや働き方・休み方について、期待する(実現して欲しい)取り組み [複数回答可]

※それぞれの上位10項目を抜粋



- ◆職場の人間関係を「上司に相談したい」は4人に1人、キャリア形成を相談したい相手は「パートナー」
- ◆なんでも相談できそうな理想の上司 男性上司1位は「タモリさん」、女性上司1位は「天海祐希さん」
- ◆なんでも相談できそうなパートナー 20代女性の理想像は「櫻井翔さん」、30代は「星野源さん」ほか、40代女性の理想像は「福山雅治さん」、50代は「三浦友和さん」

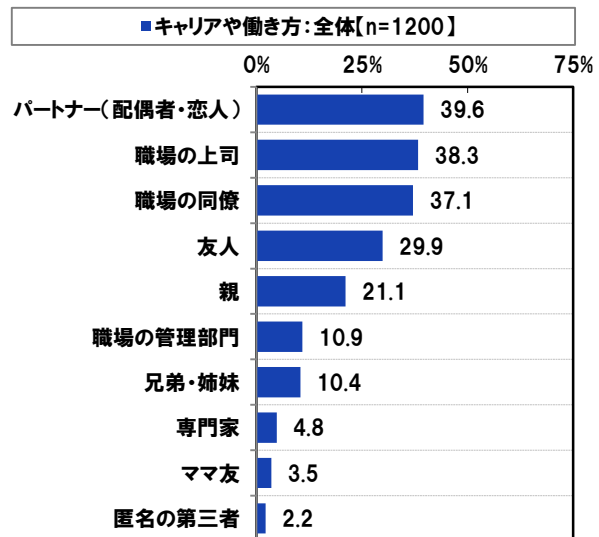
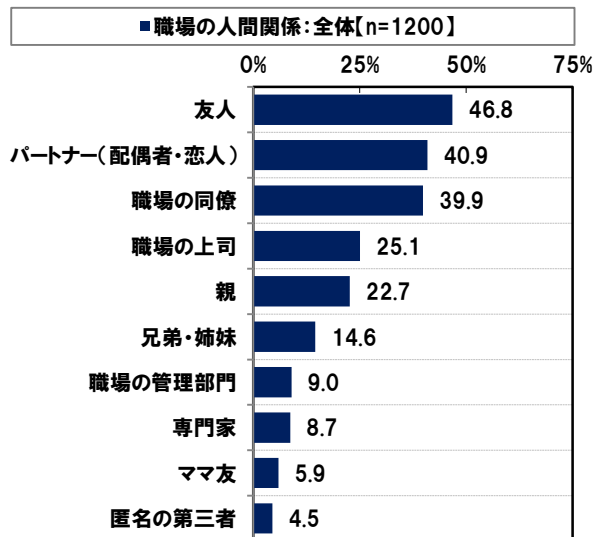
仕事の悩みごとや不安を抱えたら、解消に向けて、誰かに相談したり、アドバイスを受けたりしたくなるものです。働く女性は仕事の悩みを抱えたら、どのような相手に相談したいと思うのでしょうか。

全回答者(1,200名)に、「職場の人間関係」の悩みごとや不安(例:ハラスメントを受ける、馴染めない、など)を相談したい・アドバイスを受けたいと思う相手は誰か聞いたところ、1位は「友人」46.8%、2位は「パートナー」40.9%、3位は「職場の同僚」39.9%となりました。職場で抱えた人間関係や悩みは職場以外の相手に相談をしたいと思う人が多いようで、友人・パートナーが1位、2位となっています。また、職場で働くメンバーのマネジメントを行う立場である「職場の上司」は4位と上位ですが、およそ4人中1人の割合(25.1%)に留まっています。職場の人間関係の悩みを上司にはしたいと思わない人が多数派のようです。

さらに、「キャリアや働き方」の悩みごとや不安(例:正社員・管理職を打診された、産休や育休を取るべきか、など)を相談したい・アドバイスを受けたいと思う相手は誰か聞いたところ、1位は「パートナー(配偶者・恋人)」39.6%、2位は「職場の上司」38.3%、3位は「職場の同僚」37.1%となりました。日々の暮らしへの影響を無視できない、働き方やキャリアについての悩みは、プライベートの時間や生計を共にしているパートナーと相談したいと考えているようです。

#### ◆仕事の悩みごとや不安を相談したい・アドバイスを受けたいと思う相手 [各複数回答]

※それぞれの上位10項目を抜粋



では、どのような上司やパートナーであれば、相談しやすいと思えるのでしょうか。

全回答者(1,200名)に、「なんでも相談できる理想の上司」のイメージにあてはまる有名人を聞いたところ、男性上司部門の1位は「タモリさん」(64名)、僅差の2位は「所ジョージさん」(60名)、3位は「明石家さんまさん」(36名)となりました。いずれもお笑いやバラエティで活躍されている大御所でありながら、温和な印象の有名人がトップ3となりました。豊富な経験を持っているだけでなく、やさしく話をしてくれそうな男性上司が理想なのではないでしょうか。他方、女性上司部門の1位は圧倒的な得票数で「天海祐希さん」(359名)となり、2位は「真矢ミキさん」(29名)、3位は同数で「篠原涼子さん」と「久本雅美さん」(ともに25名)となりました。トップの天海祐希さんといえば、元宝塚歌劇団のトップスターで、勝ち気な性格の女性を演じることの多い人気女優です。エネルギーに男性社会を生き抜く女性のイメージから、働く女性のお手本として、相談相手になって欲しいと思われるのではないのでしょうか。

男女総合でみると、1位は「天海祐希さん」、2位は「タモリさん」、3位は「所ジョージさん」となったほか、8位に「マツコ・デラックスさん」(27名※男性上司として13名、女性上司として14名が回答)がランクインしました。温和な印象がありながらも、正直で切れ味鋭い辛口コメントで知られるマツコ・デラックスさんは、相談しやすい理想の上司のイメージにあてはまるようです。

続いて、「なんでも相談できる理想のパートナー(配偶者・恋人)」のイメージにあてはまる有名人を聞いたところ、1位は「福山雅治さん」(25名)、僅差の2位は3名が同数で「阿部寛さん」、「井ノ原快彦さん」、「櫻井翔さん」(いずれも24名)となりました。

回答者の年齢別にみると、20代の1位は「櫻井翔さん」(12名)、40代の1位は「福山雅治さん」(11名)、50代の1位は「三浦友和さん」(10名)となりました。30代の1位は同数で、回答者全体の上位となった「福山雅治さん」、「阿部寛さん」、「井ノ原快彦さん」のほか、「星野源さん」(いずれも7名)の4名がランクインしました。

◆「なんでも相談できる理想の上司」のイメージにあてはまる有名人 [自由回答(男女各1名ずつ)]  
※全体[n=1200] ※上位10位までを抜粋

「男性上司」			「女性上司」			「男女総合」		
順位	回答	人数	順位	回答	人数	順位	回答	人数
1位	タモリ	64	1位	天海祐希	359	1位	天海祐希	359
2位	所ジョージ	60	2位	真矢ミキ	29	2位	タモリ	64
3位	明石家さんま	36	3位	篠原涼子	25	3位	所ジョージ	60
4位	北野武(ビートたけし)	32	4位	久本雅美	25	4位	明石家さんま	36
5位	阿部寛	28	5位	黒木瞳	17	5位	北野武(ビートたけし)	32
6位	堤真一	25	6位	和田アキ子	17	6位	真矢ミキ	29
7位	三浦友和	24	7位	吉田羊	16	7位	阿部寛	28
8位	中居正広	24	8位	江角マキコ	16	8位	マツコ・デラックス	27
9位	内村光良	22	9位	米倉涼子	16	9位	堤真一	25
10位	佐々木蔵之介	19	10位	マツコ・デラックス	14	9位	篠原涼子	25
	池上彰	19					久本雅美	25

◆「なんでも相談できる理想のパートナー(配偶者・恋人)」のイメージにあてはまる有名人 [自由回答]  
※全体の上位10位まで、年齢別の上位3位までを抜粋

全体[n=1200]			20代[n=300]			30代[n=300]		
順位	回答	人数	順位	回答	人数	順位	回答	人数
1位	福山雅治	25	1位	櫻井翔	12	1位	福山雅治	7
2位	阿部寛	24	2位	西島秀俊	8		阿部寛	7
	井ノ原快彦	24	3位	阿部寛	6		井ノ原快彦	7
	櫻井翔	24			向井理		6	星野源
5位	竹野内豊	21	40代[n=300]			50代[n=300]		
6位	中居正広	20	1位	福山雅治	11	1位	三浦友和	10
7位	ディーン・フジオカ	18	2位	中居正広	9	2位	竹野内豊	9
8位	西島秀俊	17	3位	井ノ原快彦	7	3位	坂上忍	8
9位	堺雅人	16						
10位	タモリ	15						



### 【働く女性のくらしとマネープラン】

- ◆働く女性の2017年度の目標1位「美容・ダイエット」、20代の3人に1人は「結婚・婚活・恋活」が目標
- ◆3人に1人は「新年度中に家計を見直し」、未就学の子を持つワーママでは半数以上
- ◆節約したい費用は「外食・飲み会費」「ケータイ代」、節約したくないのは「趣味・レジャー費」「美容・被服費」
- ◆生活の余裕や貯蓄を増やす工夫「変動費の節約を実施」4割半も「家計簿をつけている」は4割以下
- ◆生活の余裕や貯蓄を増やすために、今後は「副業に挑戦したい」4割弱、「固定費を節約したい」は3割弱

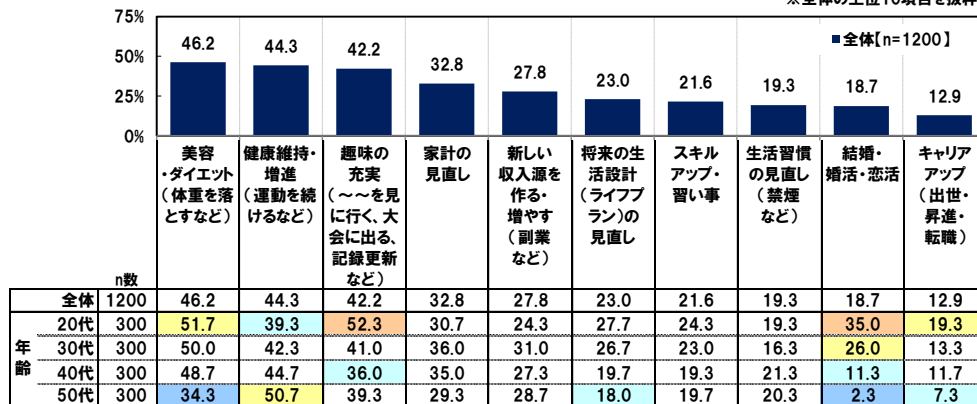
全回答者(1,200名)に、2017年度(4月からの1年間)で行いたいことを聞いたところ、「美容・ダイエット(体重を落とすなど)」46.2%が最多回答で、次いで、「健康維持・増進(運動を続けるなど)」44.3%、「趣味の充実(～～を見に行く、大会に出る、記録更新など)」42.2%が続きました。働く女性の2017年度の目標として、美容・ダイエットや健康維持・増進などの自己管理と、趣味の充実が多く掲げられているようです。以降、くらしとお金に関連する目標として、「家計の見直し」32.8%、「新しい収入源を作る・増やす(副業など)」27.8%、「将来の生活設計(ライフプラン)の見直し」23.0%が続いています。家計を見直したり、新しい収入源を作ったりすることで、生活に余裕を持ちたい人が多いのではないのでしょうか。

年齢別にみると、20代では、「美容・ダイエット」51.7%や「趣味の充実」52.3%、「結婚・婚活・恋活」35.0%、「キャリアアップ(出世・昇進・転職)」19.3%などの割合が高くなりました。20代の働く女性は、美容に励み、趣味も恋愛も仕事も充実させたいと考えているようです。

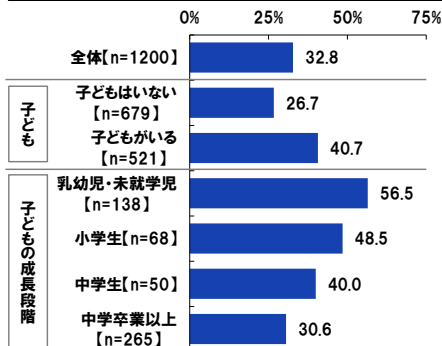
さらに、「家計の見直し」に注目してみると、子どもがいる人は40.7%で、子どもがいない人(26.7%)よりも高く、特に、乳幼児・未就学児の子どもがいる人(56.5%)や小学生の子どもがいる人(48.5%)で高くなりました。幼い子どもを育てながら働いているワーキングマザーには、新年度は家計の見直しをしたいと考えている人が多いようです。また、「将来の生活設計の見直し」も、幼い子どもがいる人で高く(乳幼児・未就学児31.9%、小学生30.9%)なりました。

◆2017年度(4月からの1年間)で行いたいこと【複数回答可】

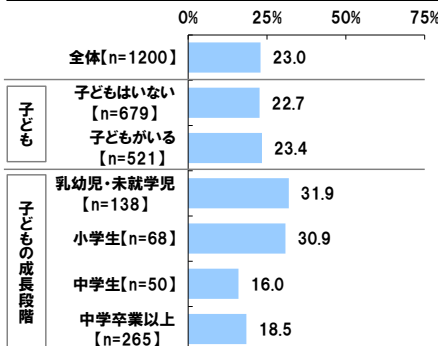
※全体の上位10項目を抜粋



■2017年度に「家計の見直し」を行いたい割合



■2017年度に「将来の生活設計の見直し」を行いたい割合



家計の見直しについて、どのような費用が見直し対象となるのでしょうか。

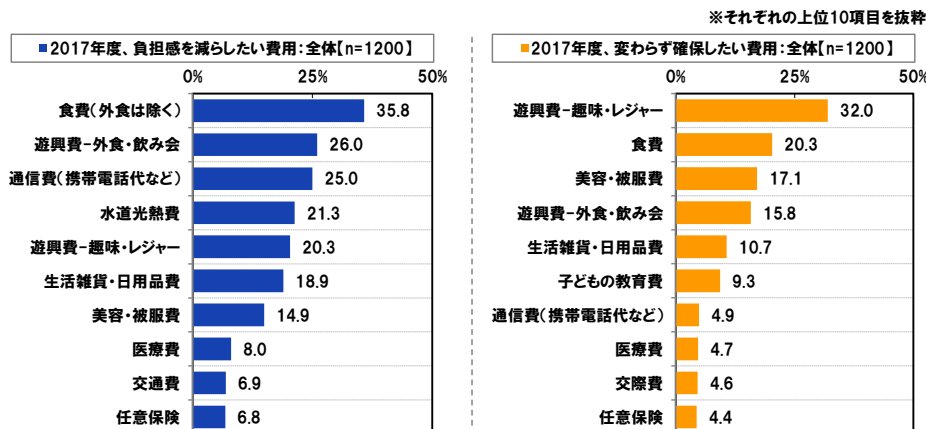
全回答者(1,200名)に、2017年度、負担感を減らしたい費用を聞いたところ、「食費(外食は除く)」35.8%が最多回答となり、次いで、「遊興費-外食・飲み会」26.0%、「通信費(携帯電話代など)」25.0%、「水道光熱費」21.3%、「遊興費-趣味・レジャー」20.3%が続きました。食事や外食・飲み会などにかかっている費用を見直し、負担を減らしたいと考える人が多いようです。

また、2017年度、変わらず確保したい費用についても聞いたところ、「遊興費-趣味・レジャー」32.0%、「食費(外食は除く)」20.3%、「美容・被服費」17.1%がトップ3となりました。遊興費の中でも趣味やレジャーにかけるお金や、美容やファッションにかけるお金は、削りたくないと考えている人が多いことがわかりました。働く女性にとって、これらにお金を費やすことは、くらしの質を上げるために必要なことなのかもしれません。食費は負担感を減らしたい費用で最多回答でしたが、かけるお金を削りたくないと思っている人も多いようです。

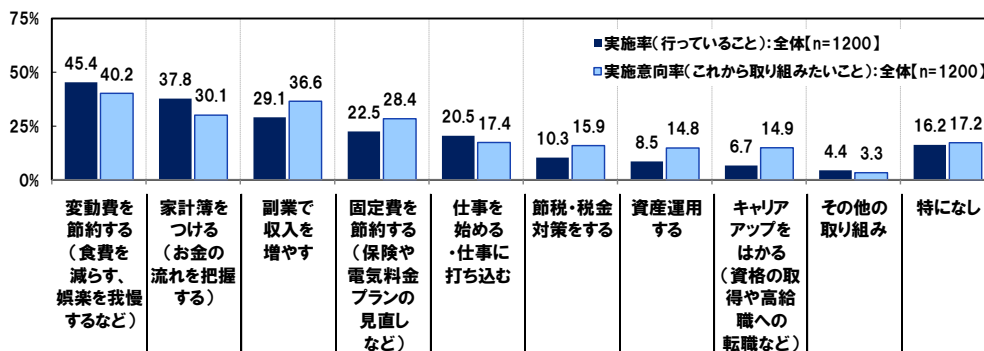
続いて、生活の余裕や貯蓄を増やすために行っていることを聞いたところ、「変動費を節約する(食費を減らす、娯楽を我慢するなど)」45.4%が最多回答となり、次いで、「家計簿をつける(お金の流れを把握する)」37.8%、「副業で収入を増やす」29.1%、「固定費を節約する(保険や電気料金プランの見直しなど)」22.5%となりました。「変動費を節約する」の実施率45.4%と比較すると、「家計簿をつける」の実施率37.8%や、「固定費を節約する」の実施率22.5%は低いことがわかります。お金の流れを把握したり、毎月かかる固定費を見直したりすることなく、「我慢の節約」を行っている人が多いのではないのでしょうか。

さらに、生活の余裕や貯蓄を増やすためにこれから(新しく・今以上に)取り組みたいことを聞いたところ、「副業で収入を増やす」36.6%や「固定費を節約する(保険や電気料金プランの見直しなど)」28.4%、「節税・税金対策をする」15.9%、「キャリアアップをはかる(資格の取得や高給職への転職など)」14.9%などは、実施率よりも高くなりました。今後は固定費の節約のほか、収入を増やすための取り組みや節税などにも取り組んでいきたいと考えている人が多いようです。

◆2017年度、負担感を減らしたい費用・変わらず確保したい費用 [各複数回答]



◆生活の余裕や貯蓄を増やすために行っていること・これから(新しく・今以上に)取り組みたいこと [各複数回答]



- ◆2人以上は老後の生活資金や親の介護資金に「不安を感じるが計算したことはない」
- ◆結婚・出産・子育ての準備資金はいくら必要？結婚準備資金に必要だと思う金額は平均196万円、妊娠・出産資金の準備は平均83万円、子どもの教育資金の準備は平均518万円
- ◆老後生活の準備資金 シミュレーション経験者の見積もりは平均1,635万円、未経験者と443万円差

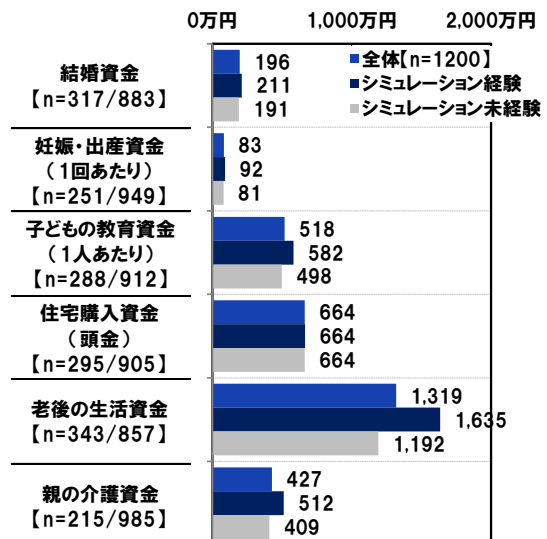
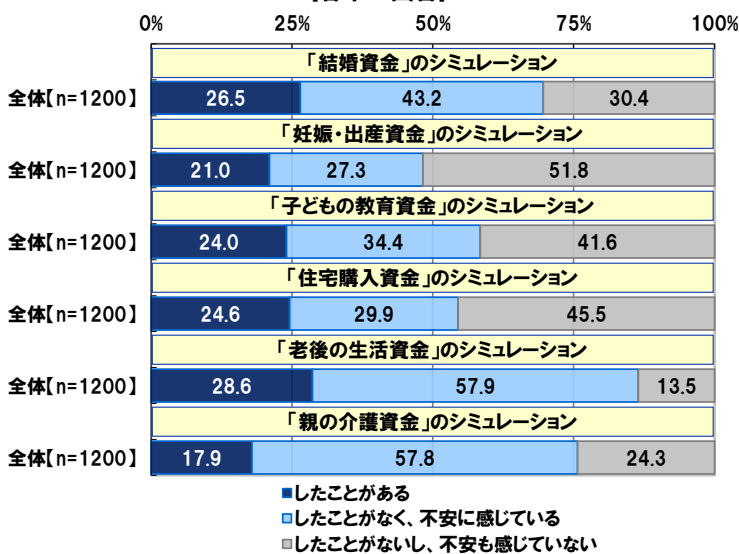
貯蓄を増やすために家計の見直しや、収入の増加を目指していることがわかりましたが、目標額がわからないまま貯蓄に励んでも、将来の見通しが立たず、生活設計に苦勞するのではないのでしょうか。

そこで、全回答者(1,200名)に、ライフイベントに必要なお金のシミュレーション(計算)をしたことがあるか聞いたところ、「結婚資金」では、「したことがある」26.5%、「したことがなく、不安に感じている」43.2%、「したこともないし、不安も感じていない」30.4%となりました。結婚式や結婚生活の開始にいくらかかるか不安に感じているながらも、資金のシミュレーションをしたことがない人が多いようです。そのほかのライフイベントについて、シミュレーションをしたことがなく、不安に感じている割合をみると、「妊娠・出産資金」27.3%、「子どもの教育資金」34.4%、「住宅購入資金」29.9%、「老後の生活資金」57.9%、「親の介護資金」57.8%となりました。老後の生活資金や親の介護資金は2人中1人以上の割合で不安を感じているながらもシミュレーションをしたことがない状況にあるようです。

続いて、ライフイベントそれぞれについて、計画的に準備(貯蓄)しておくべきだと思う金額はいくらだと思うか聞いたところ、「結婚資金」は平均196万円、「妊娠・出産資金(1回あたり)」は平均83万円、「子どもの教育資金(1人あたり)」は平均518万円、「住宅購入資金(頭金)」は平均664万円、「老後の生活資金」は平均1,319万円、「親の介護資金」は平均427万円となりました。

シミュレーション経験者と未経験者にわけて平均額の比較をすると、「子どもの教育資金(1人あたり)」はシミュレーション経験者で582万円、未経験者で498万円と84万円差、「老後の生活資金」はシミュレーション経験者で1,635万円、未経験者で1,192万円と443万円差、「親の介護資金」はシミュレーション経験者で512万円、未経験者で409万円と103万円差となり、いずれも未経験者の方が少なく見積もっていることがわかりました。ライフイベントに必要な資金は少なく見積もりがちなようで、シミュレーションをしないままだと実際にそのライフイベントと向き合ったときに、「準備が足りなかった」と後悔することになってしまうかもしれません。

◆ライフイベントに必要なお金のシミュレーション(計算)をしたことがあるか ◆計画的に準備(貯蓄)しておくべきだと思う金額の平均  
[各単一回答]



※n数表記 左…シミュレーション経験者/右…シミュレーション未経験者

- ◆働く女性のマネーリテラシー「iDeCoのメリット」の認知率は18%、パート主婦は14%
- ◆ふるさと納税のワンストップ特例知っていた？働く女性の3割弱が「知っていた」、20代は2割強に留まる
- ◆「新配偶者控除は150万円」既婚女性の認知率は71%、「引き上げを評価する」は46%
- ◆「新配偶者控除で働き方が変わる」パート主婦の3割、「変わらない」4割強
- ◆新配偶者控除でも働き方が変わらない理由は「家事・育児との両立」「勤務先の都合」「いい働き口がない」
- ◆配偶者控除の見直し「夫婦控除にすべき」31%、「配偶者控除を残すべき」19%、パート主婦では賛否拮抗

働くことで社会保険や税金など、様々なお金に関する制度に関わるようになりますが、これらのお金に関する制度は、知っておくことで得するものも多くあります。働く女性は、これらのお金に関する制度について、どの程度の知識を持っているのでしょうか。

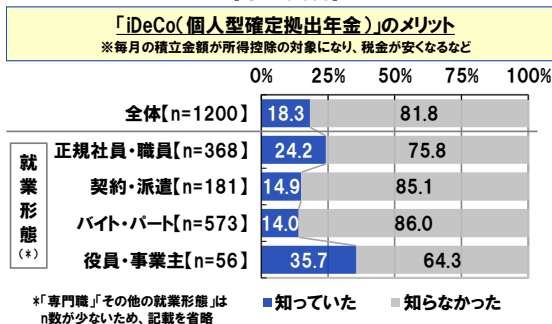
全回答者(1,200名)に、昨今話題となったお金に関する制度を提示し、知っていたか聞きました。まずは「iDeCo(個人型確定拠出年金)」について聞いたところ、メリット(※毎月の積立金額が所得控除の対象になり、税金が安くなるなど)を「知っていた」割合(以下、認知率)は18.3%、加入対象者の拡張(※企業年金の加入者や公務員、パート主婦でも加入できるようになったこと)の認知率は16.5%となりました。節税しながら老後資金の備えができるiDeCoは、今年から加入対象者が拡張され話題になりましたが、働く女性の認知率はまだ高くないようです。

これらの認知率はバイト・パートで特に低く、「iDeCoのメリット」14.0%、「iDeCoの加入対象者の拡張」12.4%となりました。これらの制度を知り、選択肢の一つとして検討することで、よりよい将来設計に繋がるかもしれません。

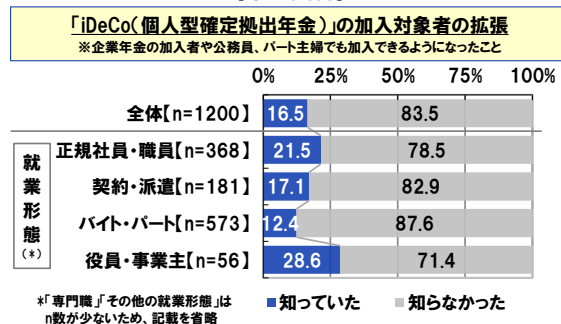
次に、寄附金額に応じた税金の控除が受けられ、実質的な自己負担額が2,000円で地方の自治体を応援でき、魅力的な返礼品も楽しめることで話題となった「ふるさと納税」について、ワンストップ特例制度(※1年間の寄附先が5自治体までなら、確定申告が必要なくなったこと)を知っていたか聞いたところ、認知率は27.8%となりました。20代では認知率が22.0%となり、特に若い世代ではあまり知られていないようです。

また、「配偶者控除」について、年収要件の引き上げ(※所得控除の対象となる年収が103万円から150万円に引き上げられること)を知っていたか聞いたところ、認知率は62.8%、既婚者では71.4%となりました。配偶者控除に対しては、働く女性の注目度は高いようで、知っている人が多数派となりました。

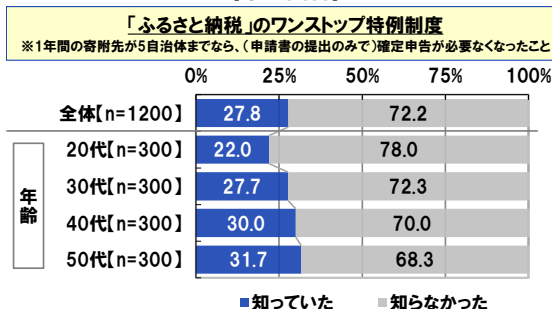
◆お金に関する以下の制度について、知っていたか  
[単一回答]



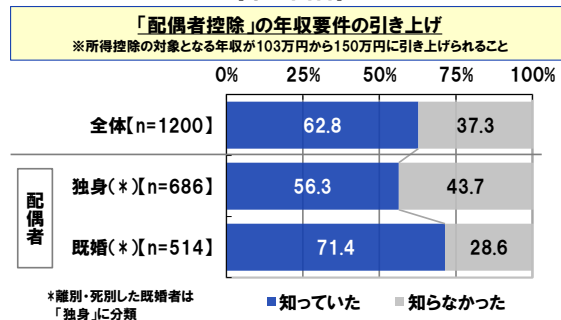
◆お金に関する以下の制度について、知っていたか  
[単一回答]



◆お金に関する以下の制度について、知っていたか  
[単一回答]



◆お金に関する以下の制度について、知っていたか  
[単一回答]





続いて、既婚者(514名)に、配偶者控除の年収要件引き上げに対する意見を聞いたところ、「評価する」46.3%、「評価しない」11.1%となりました。配偶者控除が見直され、年収要件が引き上げられることを、現時点で配偶者がいて働いている女性は好意的に受け取っている傾向にあるようです。

また、年収要件が150万円になったら、働き方は変わるか聞いたところ、「変わる」24.1%、「変わらない」49.6%となりました。働く既婚女性の4人中1人は働き方が変わると予想しているようです。

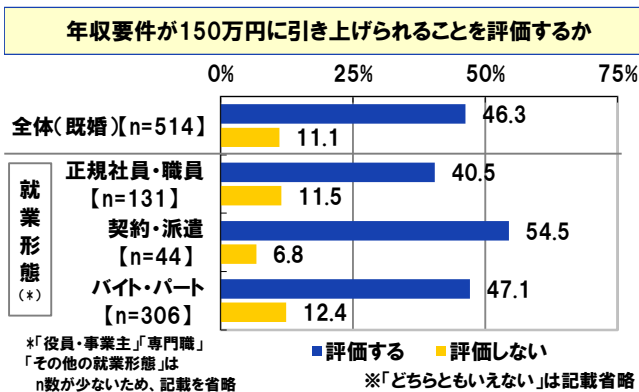
就業形態別にみると、バイト・パートでは「変わる」が29.1%でそのほかの就業形態よりも高いものの、「変わらない」が41.5%で多数派になりました。年収要件引き上げに合わせて働き方を変えるパート主婦がいる一方で、年収要件を引き上げられた後も働き方を変えないつもりパート主婦も多いようです。

次に、既婚者のうち、年収要件が150万円になっても働き方が変わらない人に、その理由を聞いたところ、「元々、収入をセーブしていないから(すでに150万円超えなど)」45.5%のほか、「家事との両立のために働く時間を増やせないから」25.1%、「勤務先の事情で働く時間を増やせないから(シフトを増やせないなど)」18.0%、「育児との両立のために働く時間を増やせないから」16.1%、「今より収入を増やせる好条件の働き口がないから」16.1%が上位回答として続きました。元々配偶者控除を意識せずに働いているという理由以外では、家事労働や育児との両立のために働く時間が増やせないことや、働こうと思っても勤務先の都合で時間を増やせなかったり、好条件で働ける新たな就業先がみつからなかったりすることが主な理由であるようです。

また、バイト・パートの回答に注目すると、「家事との両立のために働く時間を増やせないから」37.0%や「社会保険の壁(いわゆる106万円や130万円の壁)があるから」21.3%などが、全体よりも高くなりました。パート主婦は、家事労働の負担や配偶者控除以外の社会保険の壁も、働き方を変えられない障害に感じているようです。

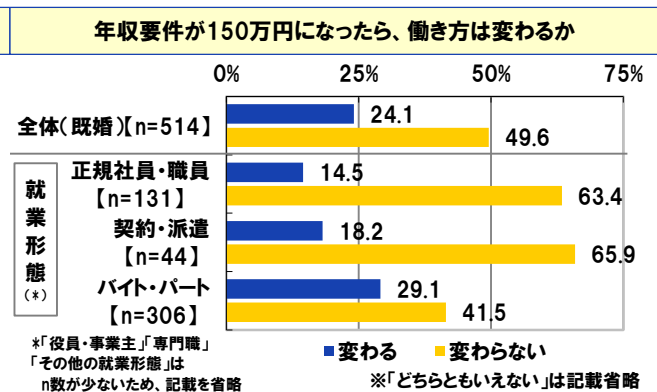
◆配偶者控除の年収要件引き上げに対する意見

【単一回答】 ※対象:既婚者(配偶者がいる)



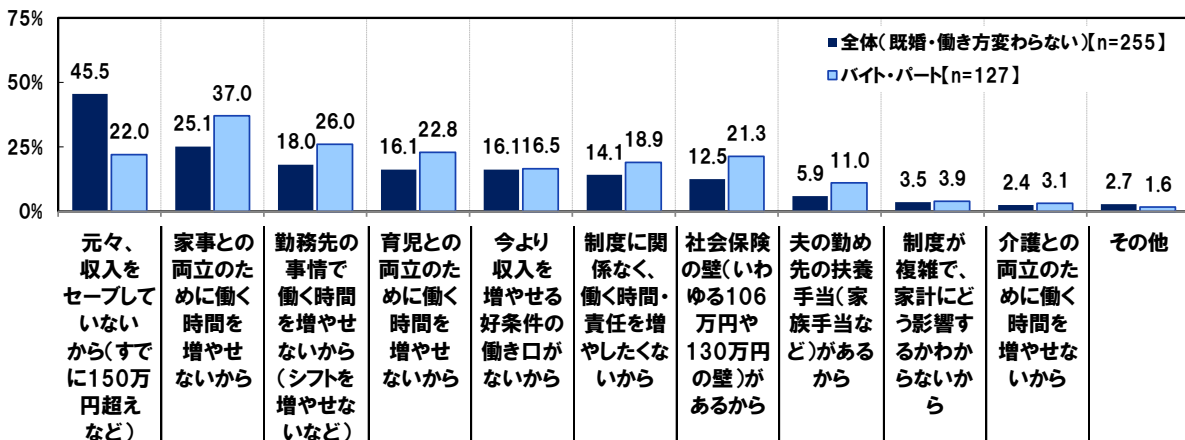
◆配偶者控除の年収要件引き上げに対する意見

【単一回答】 ※対象:既婚者(配偶者がいる)



◆配偶者控除の年収要件が150万円になっても、働き方が変わらない理由

【各複数回答】 ※対象者:既婚者(配偶者がいる)・年収要件が150万円になっても働き方が変わらない人

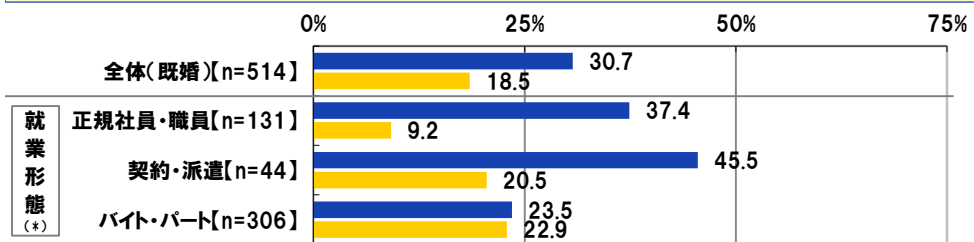


配偶者控除の見直しは当初、配偶者控除を廃止し、夫婦であれば一律で受けられる夫婦控除を新設する、といった議論もされてきました。そこで、既婚者(514名)に、「配偶者控除を廃止し、夫婦控除にする」という方針に賛成か反対か聞いたところ、「賛成(夫婦控除にすべき)」30.7%、「反対(配偶者控除を残すべき)」18.5%となり、現時点で配偶者がいて、仕事をしている女性に限った意見ではありますが、賛成が反対を上回りました。反対の声も2割弱と決して少なくないものの、賛成する人が多数派のようです。

就業形態別にみると、正規社員・職員は「賛成」37.4%、「反対」9.2%、契約・派遣は「賛成」45.5%、「反対」20.5%と、賛成が反対を上回りましたが、パート・バイトでは「賛成」23.5%と「反対」22.9%が拮抗しました。制度変更によって実際の生活にどのような影響を受けるかが決まってからでないかと判断ができず、現時点では反対だ、と慎重な姿勢を示したパート主婦も多かったのではないのでしょうか。

◆夫婦控除に対する意見 [単一回答] ※対象:既婚者(配偶者がいる)

「配偶者控除を廃止し、夫婦控除(夫婦であれば一律で受けられる控除)にする」という方針に賛成か反対か



■ 賛成(夫婦控除にすべき) ■ 反対(配偶者控除を残すべき)  
 \*「役員・事業主」「専門職」「その他の就業形態」はn数が少ないため、記載を省略 ※「どちらともいえない」は記載省略

◆家計管理について相談したい相手 家族や友人に次いで、FPなどの「専門家」がランクイン  
 ◆お金の悩みに有効なアドバイスをくれそうな人 イメージする男性は「タモリさん」や「森永卓郎さん」、  
 女性は「天海祐希さん」、「松居一代さん」、「北斗晶さん」

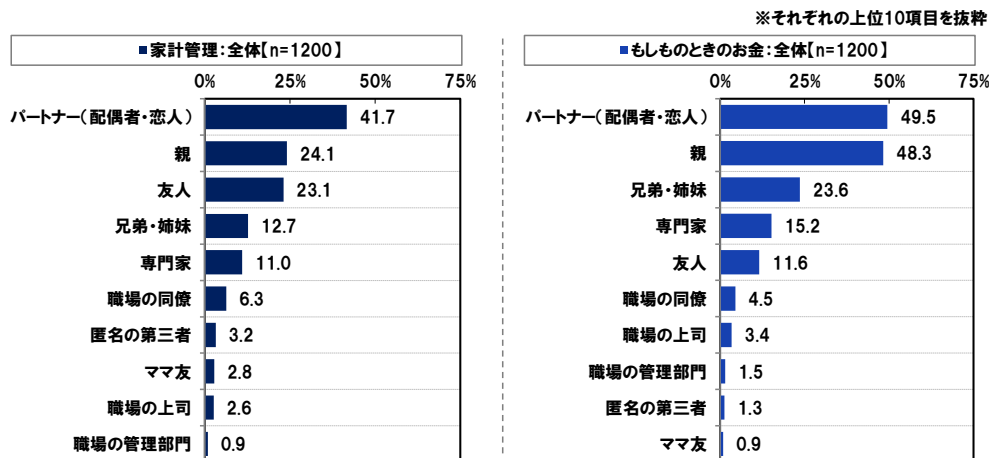
全回答者(1,200名)に、「家計管理」の悩みごとや不安(例:収入・貯蓄が増えない、出費がかさむ、など)を相談したい・アドバイスを受けたいと思う相手は誰か聞いたところ、1位は「パートナー」41.7%、2位は「親」24.1%、3位は「友人」23.1%となりました。以下、「兄弟・姉妹」12.7%に次いで、ファイナンシャル・プランナーなどの「専門家」11.0%が続いています。

また、「もしものときのお金」の悩みごとや不安(例:事故・入院、相続・介護のお金の悩みなど)では、1位「パートナー」49.5%、2位「親」48.3%、3位「兄弟・姉妹」23.6%に続き、4位に「専門家」15.2%が挙がりました。お金の悩みごとや不安に関しては、専門家に相談して悩みを解決したいと考える人も少なくないようです。

では、どのような人であれば、お金のことを相談したいと思えるのでしょうか。

全回答者(1,200名)に、「お金のことで、有効なアドバイスをくれそうな相談相手」のイメージにあてはまる有名人を聞いたところ、男性の相談相手部門の1位は「タモリさん」(47名)、2位は経済学者の「森永卓郎さん」(28名)、3位は「マツコ・デラックスさん」(25名)となりました。他方、女性の相談相手部門の1位は「天海祐希さん」(70名)、2位は「松居一代さん」(40名)、3位は「北斗晶さん」(31名)となりました。1位は「なんでも相談できる理想の上司」でも1位となった天海祐希さんでしたが、2位と3位は異なる顔ぶれとなりました。節約上手として知られる松居一代さんや、料理上手で知られる北斗晶さんなど、主婦業でも活躍している印象のある2人がランクインしたことから、お金のアドバイスと合わせて、日々の暮らしで役立つような“主婦の知恵”もアドバイスして欲しいと考えているのかもしれない。

◆お金の悩みごとや不安を相談したい・アドバイスを受けたいと思う相手 [各複数回答]



◆「お金のことで、有効なアドバイスをくれそうな相談相手」のイメージにあてはまる有名人

[自由回答(男女各1名ずつ)] ※全体[n=1200] ※上位10位までを抜粋

「男性の相談相手」

順位	回答	人数
1位	タモリ	47
2位	森永卓郎	28
3位	マツコ・デラックス	25
4位	坂上忍	24
	池上彰	24
6位	ヒロミ	23
7位	林修	20
8位	中居正広	19
9位	速水もこみち	17
10位	櫻井翔	16

「女性の相談相手」

順位	回答	人数
1位	天海祐希	70
2位	松居一代	40
3位	北斗晶	31
4位	マツコ・デラックス	30
5位	勝間和代	26
6位	萩原博子	17
7位	和田アキ子	16
8位	柴田理恵	15
9位	小池百合子	13
	上沼恵美子	13
	真矢ミキ	13

「男女総合」

順位	回答	人数
1位	天海祐希	70
2位	マツコ・デラックス	55
3位	タモリ	47
4位	松居一代	40
5位	北斗晶	31
6位	森永卓郎	28
7位	勝間和代	26
8位	坂上忍	24
	池上彰	24
10位	ヒロミ	23

《調査概要》

- ◆調査タイトル : 働く女性のくらしとお金に関する調査 2017
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのインターネットモニター会員を母集団とする  
全国の20代～50代の就業女性
- ◆調査期間 : 2017年2月15日～2月20日
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 1,200件 \*有効回答から、年齢(10歳区切り)が均等になるように抽出  
(内訳)20代、30代、40代、50代 各300名
- ◆調査協力会社 : ネットエイジア株式会社

■■法人概要■■

- 協会名: 特定非営利活動法人(NPO法人)日本ファイナンシャル・プランナーズ協会  
 創立: 1987年11月19日  
 ※2001年7月2日に特定非営利活動法人(NPO法人)として、スタート
- 理事長: 白根 壽晴
- 所在地: <本部事務所>東京都港区虎ノ門 4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス 5F  
 <大阪事務所>大阪府大阪市北区堂島浜 1-4-19 マニユライフプレイス堂島 5F
- 事業目的: 広く一般市民に向けてファイナンシャル・プランニングの啓発と普及を図る。  
 ファイナンシャル・プランニングの担い手(専門家)であるファイナンシャル・プランナーを  
 養成・認証する。
- 事業内容: ・ファイナンシャル・プランニングに関する知識の啓発と普及  
 ・ファイナンシャル・プランニングに関する調査、研究及び情報の提供  
 ・ファイナンシャル・プランニングに関する書籍の発行  
 ・国内外のファイナンシャル・プランニング関係機関との交流  
 ・ファイナンシャル・プランナーの教育と資格認定試験の実施
- URL: <http://www.jafp.or.jp/>

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、  
「日本FP協会 調べ」と付記のうえ、ご使用いただきますようお願い申し上げます。

本件に関するお問合せ先			
担 当	日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 広報部広報課 金田・田和	TEL	FAX
		03-5403-9739	03-5403-9795
		E-mail	info@jafp.or.jp